

静岡県車連ニュース 2007年2月号 No.44

発行 / 静岡県自転車競技連盟

発行人 / 大橋正己

編集人 / 山本和中 松村友子

編集事務局 / 静岡県自転車競技連盟事務局

〒421-3301 庵原郡富士川町北松野620-2 (有) 有開内 松村正之方

TEL・FAX: 0545-85-3128 E-mail: ariake@thn.ne.jp

平成18年度全国高等学校選抜自転車競技大会

期 日	3月22日(木)～25日(日)	
会 場	福岡県・北九州市メディアドーム、北九州市若松区内一般公道特設ステージ	
出場選手	望月 諒真(静岡北高)	ポイント・レース・個人ロードレース
	坂本 圭宏(静岡北高)	ケイリン
	本間 義仁(修善寺工高)	スクラッチ・個人ロードレース
	田中 雅士(修善寺工高)	ケイリン・個人ロードレース
	石田 輝(興誠高)	1kmT・T・個人ロードレース
	加藤 道弘(興誠高)	スプリント
	高村明日香(興誠高)	ポイント・レース
	稲葉 洋貴(星陵高)	スクラッチ

静岡県自転車競技連盟理事の募集

今年度は役員の変更の年です。理事の募集を若干名おこないます。理事の希望者は事務局までご連絡ください。

3級公認審判員講習会

日 時	平成19年3月4日(日) 9:00～12:00
会 場	静岡県体育協会会館 2階会議室 草薙総合運動場の駐車場は利用できませんので、電車をご利用ください。 静岡鉄道電車「県総合運動場」駅下車徒歩5分
受講料	1,000円(テキスト代込み)当日受領する。
登録料	6,000円(2年間)
申込	静岡県自転車競技連盟事務局へTEL・FAX・メールにて2月28日までに連絡のこと

競技役員募集

第7回全日本実業団トラック記録会

期 日	平成19年4月22日(日)
募集人数	10名
会 場	CSC250mトラック
申込締切	3月22日(日)
※詳細については後日連絡します。	

第8回チャレンジ・ザ・オリンピック

期日	4月28日(土)29日(日)
会場	CSC250mトラック
締切	3月28日(水)
詳細	JCFホームページをご覧ください。

ジュニア期スポーツ活動研修会

趣 旨	有望な新人の発掘と育成を目指して、小・中学生（未経験者）を対象に自転車競技の体験の場を提供する。
日 時	平成19年3月18日（日）9：00～12：00
内 容	(1) 乗車方法（安全指導含む・ギヤ比等）の講義及び種目説明等 (2) トラック・ロード試走 ※ 詳細については静岡県自転車競技連盟ホームページまたは事務局へ問い合わせ下さい。
参加申込	(1) 参加申込書は静岡県自転車競技連盟ホームページからダウンロードするか、事務局へFAX（参加者名・電話番号・FAX番号もしくは住所を明記）で請求する。 (2) 取得した参加申込書に必要事項を記入し、保護者承諾印を押印のうえ郵送する。 (3) 参加申込は3月8日（木）必着とする。 (4) 参加申込は先着20名までとする。
参加料	無料
持ち物	(1) 運動のできる服装 (2) 手袋または軍手 ※ 自転車・ヘルメットはこちらで用意します。

1月23日に逝去されました鈴木康夫先生を偲んで、静岡県自転車競技連盟 望月副会長の追悼文を掲載します。ここに謹んでご冥福をお祈りします。

～追 悼～

静岡県自転車競技連盟 副会長 望月 正

いつも柔和な笑顔で、でも快活で生徒たちにとっても慕われていた「康さん」。彼が我々の前から姿を消してから、1ヶ月が過ぎました。彼は40年にわたる教員生活の中で38年間も自転車競技にかかわってきたので、その一端に触れて追悼の言葉にしたいと思います。

私が初めて康さんと会ったのは1982年(昭和57年)の鹿児島インターハイの時でした。東海大一高自転車競技部を率いた康さんと、ピンチヒッターとして自分の高校の生徒を引率した私は、大隈半島の先端に在る根占自転車競技場に来ていたのです。それまで自転車競技について何も知らなかった私に、康さんはとても親切に様々なことを教えてくれました。また、生徒達は列車で来たのに、康さん自身は30数時間もかけて機材運搬の為に根占まで来たのです。そのバイタリティーには、その後も度々驚ろかされました。当時の県内の高校では、東海大一高だけに正式な自転車競技部がありました。他の高校では単独で選手が出ることの方が多かったと思います。その選手が県高校総体大会で勝ち抜けば、東海高校総体、全国高校総体に参加できるという具合でした。資料に依りますと、康さんが東海大一高の顧問になったのが1970年(昭和45年)です。その3年後の73年には静岡インターハイが開催されています。顧問になって3年目にして全国大会の責任者になったのですから、その時の苦労は並大抵の苦労ではなかったと思います。翌74年から75年、76年と3年連続でイタリアン・チーム・レースで全国優勝し、76年にはロードレースでも優勝を果たしました。更に3年後の79年には、トラック優勝と同時に総合優勝と云う金字塔を打ち立てました。全国の頂点に立っても、おごらず常にマイペースで生徒を指導して来た康さんの真骨頂が発揮された結果だと思います。

校外にあつては国体県選手団の高校の部の監督として15回も出場し、県自転車競技連盟の競技力の向上に貢献されました。黎明期の県高体連自転車競技部を委員長として10数年の長きに亘り牽し、県車連の中に高体連自転車競技部を確立した功績は偉大です。今在る高体連自転車競技部の礎を築いて下さった康さんに心から感謝申し上げ、追悼の言葉と致します。